S I A S R (Saitama Infectious Agents Surveillance Report)

2011年1月26日

埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況（2010）

2010 年に分離され埼玉県衛生研究所で確認された 3 類感染症である腸管出血性大腸菌は 110 株と昨年の 121 株より減少しました。県内分離 110 株の内訳を表に示しましたが、最も多く検出された血清型は例年通り O157:H7 の 77 株（70.0%）、次いで O121:H19 が 10 株（9.1%）でした。O157:H7 の毒素型別では VT1&2 産生株が 55 株、VT2 産生株が 21 株、VT1 産生株が 1 株でした。分離された 110 株のうち 37 株は、患者発生に伴う家族検便や給食従事者に対する定期検便で非発症者から検出されたものでした。

腸管出血性大腸菌の血清型・毒素型別検出数（2010）

血清型	毒素型	検出数	血清型	毒素型	検出数
O157:H7	VT1&2	55	O91: H UT	VT1	2
O157:H7	VT2	21	O110: H7	VT2	1
O157:H7	VT1	1	O121: H19	VT2	10
O157:H-	VT1&2	7	O145: H-	VT2	1
O26:H11	VT1&2	1	O146: H21	VT1	1
O26:H11	VT1	7	O165: H-	VT2	1
O74:H12	VT2	1	合計		110
O91: H-	VT1	1			

患者の発生状況では、まず 6 月初旬に県北部の保育園において O121:H19(VT2)集団感染事例が発生し、園児、職員など対象者 145 名の検査を実施したところ、園児及びその家族 10 名が菌陽性となりました。発症者は 1 歳児クラスに集中し、保育園内での日常生活において感染が拡大したものと考えられました。6 月中旬には県西部の焼肉チェーン店の利用者から患者が発生し、2 家族 5 名から O157:H7(VT1&2)が分離されました。また、diffuse outbreak を疑う事例が県西部の保健所管内で発生しました。これは、8 月初旬から中旬にかけて腹痛･血便を主徴とする患者が散発的に発生したもので、患者から O157:H7(VT1&2)が分離されました。調査の結果、刺身の喫食率が高かったものの、汚染源の究明までには至りませんでした。PFGE パターンもすべて一致していましたが、このパターンは愛知県や三重県など 2010 年に広域で発生が見られたパターンでした。

分離株数は昨年より減少しましたが、今後もその動向を注視する必要があります。今後とも、原因究明調査等へのご協力をお願いします。